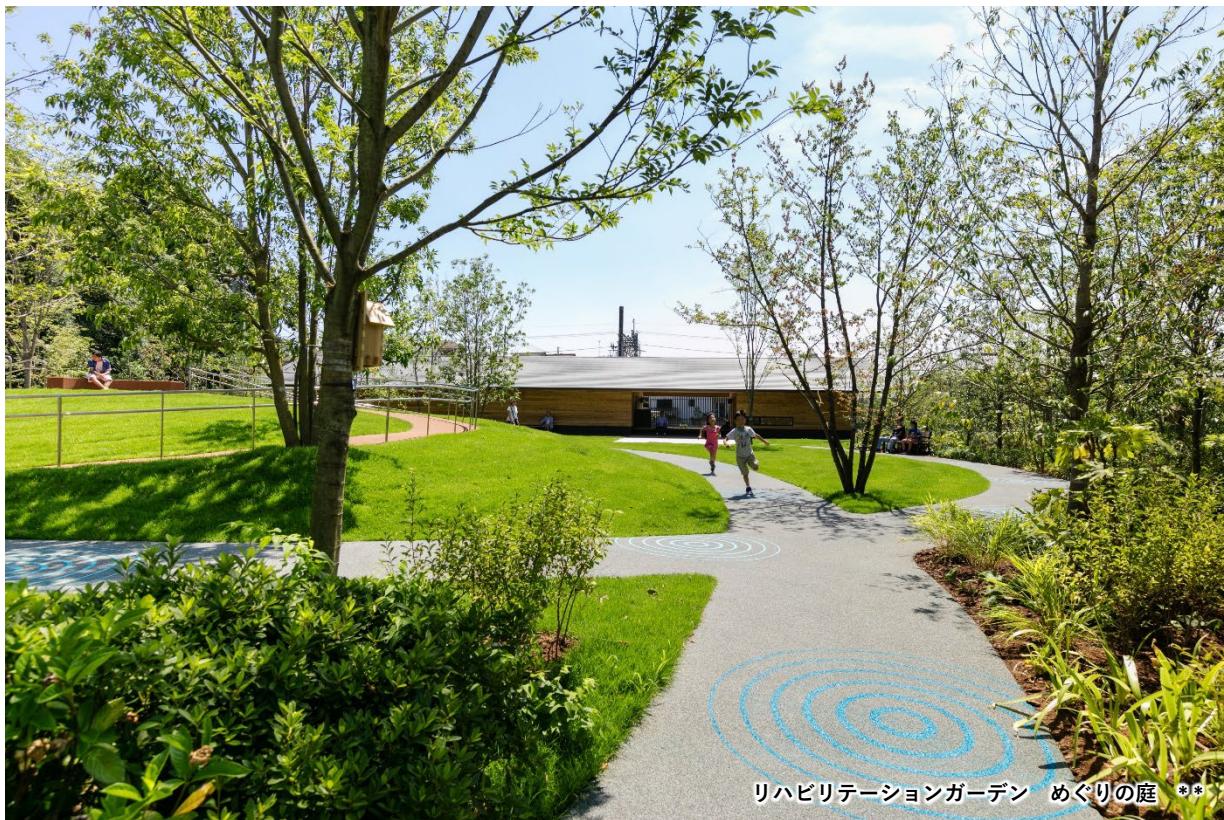


新柏クリニックと周辺施設

施設利用者と地域のQOL・帰属意識を向上させる「森林浴のできるメディカルケアタウン」づくり



リハビリテーションガーデン めぐりの庭 **



糖尿病みらいの軒下空間とレインスケープ® (雨庭) *

取組の位置



地域課題・目的

【地域課題】

- 計画地は、小中学校の通学路に面しているものの、鉄道敷や水道局施設に囲まれ、日中の人通りは少なく閑散とした街区景観を呈していた。
- 事業主の原風景である里山雑木林景観の保全と病院経営（他との差異化、人材難への対応）を両立し得る、自然重視の解決策を模索していた。
- 同市内の中核病院の医師寮・看護師寮用地としての貸借期間が終わり、地主である事業主は跡地の活用方針の策定を行う必要があった。

【目的】

- 事業主が掲げる「最善の医療を、最良の環境で提供し、患者に貢献する」を実現するみどりと建築を創出する。

取組内容

- 新柏クリニック(1期)：木造・木質架構で開放感のある透析室を持つ**森林浴のできる診療所**
- めぐりの庭(2期)：緑豊かで患者個人の症状・体力に合わせた運動療法の実践が出来るリハビリテーションガーデン
- 糖尿病みらい(3期)：「待つ」から「過ごす」へ受診体験を変化させる糖尿病専門治療センター
- 3期計6年の整備事業を通じて、みどり豊かなまち「**森林浴のできるメディカルケアタウン**」づくりを行った。
- 木造・木質の診察室や庭園のある診療所が、患者や地域住民に与える影響について、継続的なアンケート調査を実施し、抑うつや地域への帰属意識等について有意な相関を明らかにした。



新柏クリニック (1期) *



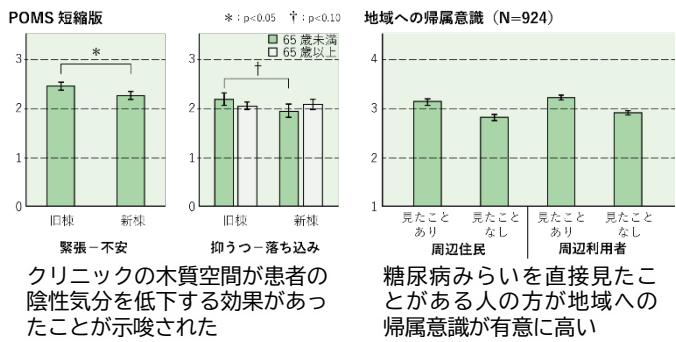
めぐりの庭 (2期) **



糖尿病みらい (3期) *

取組効果

- **健康への寄与**：患者の負担軽減を目指し、木造・木質を主体とした建物づくりと緑豊かな屋外計画により、**患者のQOLと地域住民の帰属意識・健康意識の向上を実現**。（日本透析医学会、日本建築学会等にて発表）
- **まちへの寄与**：ひとつの敷地から始まった取り組みが、みどり豊かなまちづくりへと展開し、数多くの**社会的評価**を受けている。（グッドデザイン賞、IAUD国際デザイン賞、SEGESそだてる緑、他多数）
- **環境への寄与**：耐火集成材による独自の木造技術により、国産材カラマツ210本分、**145㎡の木材**を使用することで**約100tのCO2を固定**。
- **医療経営への寄与**：医療・福祉業界の深刻な人材不足の中、建替えを契機に看護師・スタッフの増員が可能となった（現在の18名の看護師のうち、4~5名が**建替え後に増員**できた）。また、新聞広告や医療専門の人材仲介会社に依存していた**求人費用が不要**となった。



問合せ先

団体名：医療法人社団中郷会 新柏クリニック、株式会社竹中工務店
 連絡先：竹中工務店 設計本部 アドバンストデザイン部 ランドスケープグループ suzuki.kouhei@takenaka.co.jp

工夫した点

【計画・設計フェーズ】

- 1期～3期の計画を通して人と自然と社会を一体的に読み解き、地域生態系に配慮した**地域景観のベースとなる雑木林景観づくり**と**自然共生型コミュニティづくり**に取り組んだ。その結果、**在来種主体の生物多様性の高い緑地整備**を実現。
- 自治体による生きもの調査記録と自社保有データを用いた鳥類の飛来・棲息予測に基づき7種を誘致目標種に設定し、植栽計画に反映。竣工後に隣接敷地の整備活用方針立案のために実施した生きもの調査（2020年、4回）では、**誘致目標種7種のうち、4種の飛来が確認**された。
- 雨水排水管への**縦樋非接続**と雨水の一次貯留・浸透を図る「**レインスケープ®（雨庭）**」により気候変動適用策としての公共下水道への負荷軽減と雨水を見える化する「**雨水建築**」と「**雨も楽しむ庭**」を実現。
- 緑地や空間デザインで健康を促す固有技術「**健康®まちづくりコード**」の知見を用いながら、計画各期で共通の素材利用（緑・植物、木質材料、石材等）と建築デザイン（水平基調、抜け、深い軒等）を実践し、生態系サービスとしての健康にも寄与する**統一感のある街区景観**を創出。

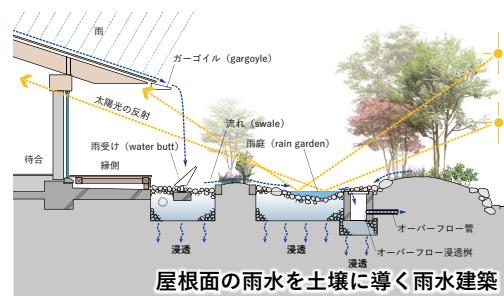
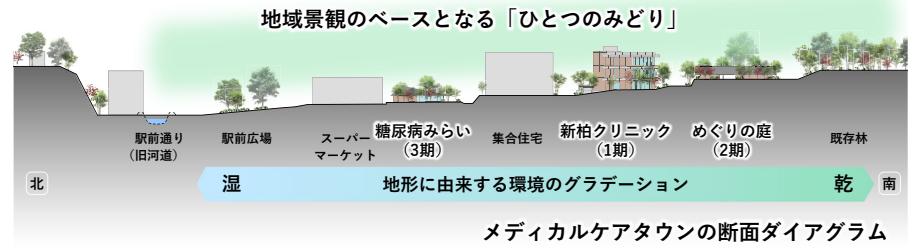
【工事フェーズ】

- 建設工事の竣工に合わせて診療所スタッフ及びプロジェクト関係者とその家族による参加型イベント（巣箱づくりWS、花苗植付会）を企画・実施し、**施設と自然への愛着を醸成**。

【維持管理・運営フェーズ】

- 診療所スタッフによる道路の落ち葉清掃や、地元幼稚園への緑地の開放、鯉のぼりの掲揚等、**地域への主体的な関わり**を通じて、**職場・地域への帰属意識を醸成**。
- 事業主、設計・施工者、維持管理者の継続的なコミュニケーションと関与により、緑地認証の取得等、**経年優化する医療施設づくり**を実践。

【導入技術の名称】 雨水貯留浸透技術『レインスケープ®』
 （自社保有技術） 『都市鳥類に配慮した緑地計画技術』
 『健康®まちづくりコード』



今後期待される効果

- 診療所の医療環境と周辺街区の生活環境の向上に伴う患者、診療所スタッフおよび周辺住民の更なる**QOLの向上**、**まちへの愛着・コミュニティの醸成**により、人と人、人と自然をつなぐ**ハブとしての機能を発揮**。
- 周辺の他事業者（周辺医療施設、住宅開発事業者等）を巻き込んだ**みどり豊かなまちづくりの連鎖的な展開と進展**。
- 自然の力を活かし、事業主が目指す「**最良の環境で医療を提供する**」**先進的な医療施設の新しいスタンダード**として広く参照され、同様の施設が増加。



【写真版權】 *：小川重雄、**：宮下潤、無印：新柏クリニック、(株)竹中工務店

今後の展望

- 隣接する雑木林において実施した生きもの調査（植物及び鳥類、2020年）を今後の樹林整備や保全活用計画に活かす。
- 地元自治体との連携強化と地域への貢献を評価する仕組み（補助金・助成金、税制優遇、表彰制度など）づくりへの提言と展開。
- みどり豊かなまちや建築と健康やQOLの関連性を明らかにする調査・研究の継続。
- 緑地認証（SEGES そだてる緑）の更新を継続するとともに、自然共生サイト（環境省）への登録等を通じて、**ネイチャーポジティブな社会の実現に貢献する医療施設**の追求。

